

流れ出る「優しさ」

詩篇 4 5 篇の瞑想より

はじめに

【新改訳 2017】

詩篇

- 45:1 すばらしいことばで 私の心は沸き立っている。
王のために私がつくった詩を 私は歌おう。
私の舌は巧みな書記の筆。
- 45:2 あなたは人の子らにまさって美しい。
あなたの唇からは優しさが流れ出る。
神がとこしえにあなたを祝福しておられるからだ。

心がはやるような「沸き立っている」といことばで始まっている詩篇 4 5 篇は、詩篇の中の雅歌とも呼ばれている美しい詩です。作者である「私」が、王のために歌おうとしているのはいったいことなのでしょう。NKJV では、「すばらしいことば」を「a good theme」と訳しています。すばらしいテーマについて語ろうとしているのです。そのテーマのひとつである流れ出る「優しさ」について考えてみたいと思います。

1. 「あなた」とは

詩篇 4 5 篇の中には、私、あなた、王、神、勇士・・・たくさんの人称が出てきますがそれぞれいったい誰のことを語っているのでしょうか。特に、「あなた」というのは詩篇 4 5 篇中に 3 1 回も繰り返されます。「王のために私がつくった詩を」歌おうとしているのですから、「あなた」とは王「メレフ」מֶלֶךְ である方を指していると考えられます。その「あなた」を、勇士と呼び、また主「アードーン」אֲדֹנָי と呼んでいます。10 節では、「娘」に「父の家を忘れよ」と語りかけているように、「あなた」と「娘」＝「王妃」との婚姻を歌っていますが、日本語の各訳ではほとんど「主」と訳されている「アードーン」אֲדֹנָי を新改訳のみ「夫」と訳しています。もともとは創世記 18 : 12 でサラがアブラハムを「主人」と呼んでいるところで初めて出てくる言葉です。また、ヘブル人への手紙の中では、詩篇 4 5 篇 6 ~ 7 節を引用して次のように述べられています。

【新改訳 2017】

ヘブル人への手紙

- 1:8 御子については、こう言われました。
「神よ。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。」

1:9 あなたは義を愛し、不法を憎む。それゆえ、神よ、あなたの神は、
喜びの油で、あなたに油を注がれた。あなたに並ぶだれよりも多く。」

つまり、この詩篇で歌われている「あなた」は御子イエシュアであるとヘブル書の記者は述べているのです。「主」であり、「夫」である「あなた」とは、花婿イエシュアを指していると考えられます。

2. 「ヘーン」 הֵן について

(1) 「ヘーン」 הֵן の意味について

「あなた」と呼ばれるイエシュアの唇から流れ出る「優しさ」とは何でしょうか。

原語では、「ヘーン」 הֵן ということばになっていますが、これは「好意、恵み、優美」という意味をもっています。（「ヘブル語大辞典」名尾耕作著）「ヘーン」 הֵן は、旧約聖書中70回使われており、そのうち詩篇ではこの45篇のほか84篇11節でも「主は恵みと栄光を与え」と、「恵み」という意味で使われています。

一番たくさん使われているのは創世記の16回で、初出箇所は6章8節の、「ノアは主の心にながっていた」（新改訳、新改訳2017）と訳されている箇所です。直訳すると「主の目に恵みを見出した」という意味ですが、口語訳では「主の前に恵みを得た」、新共同訳では「主の好意を得た」という訳になっています。そのほかの箇所でも、「お召すなら」、「あなたの心にながらうなら」などという訳で使われており、

מָצְאָה הֵן בְּעֵינַי (マーツァー ヘーン ベエーネー) という慣用句で用いられています。初出のノアの記事では、主が特別な好意をもってノアを受け入れてくださったことを知ることができますが、このような好意を「ヘーン」 הֵן が表現しているのです。

箴言でも13回と多く使われていますが、それぞれの意味合いが創世記とは少し違っていました。

【新改訳2017】

箴言

1:9 それらは、あなたの頭に戴く美しい花の冠、首にかける飾りだから。

「飾り」は、他の訳でも、「美しい冠」（口語訳）、「美しい花輪」（新改訳）、「優雅

な冠」(新共同訳)となっています。𐤀𐤃𐤅 (エヴェン ヘーン) と、石という意味の単語とともに使われて「宝石」(17:8)と訳されたり、冠や飾り、宝石の美しさや魅力を象徴的に表す言葉としても使われていて、慕わしいものの象徴として語られているとも言えます。箴言は、「知恵であるわたし」(箴言8章12節)が多くを語っているのですが、パウロが「キリストは、私たちにとって、神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。」(Iコリント1:30)と述べているように、知恵のことばの麗しさ、慕わしさは、メシアであるイエシュアのことばそのものではないでしょうか。

(2) 「ヘーン」𐤀𐤃𐤅の愛について

ノアに向けられた「ヘーン」𐤀𐤃𐤅は、悪の増大する地上にあっても、「神とともに歩」むことを自らえらんでその世を生きていたノアに対して特別に目をかけられ、神の地上での新しいご計画のためにノアを用いてくださったその神の心、神のご好意、つまり神の寵愛を示しています。この神の一方的な好意を、パウロは「カリス」という言葉であらわしているようです。受けるに値しない罪人に注がれた神の愛、価値なき者に与えられる神の愛顧、Grace を「カリス」と表現し、福音を説明したのです。

また、ルカは同じ「カリス」を、神や人から愛されること、好意を持たれること、目をかけられた「恵まれた者」、Favor という意味で使っています。

「神の人に対する一方的な好意の表れの思想は、新約に入ると、使徒パウロにおいては福音を説明する重要な思想となります。救われるに値しない者に与えられる神のご好意、それが「福音」であり、その「福音」によって私たちは救われるのです。私たちに対する神の好意は今もキリストにあって注がれているのです。」(「牧師の書斎」より引用)

「ヘーン」𐤀𐤃𐤅は、詩篇45篇2節に訳されているように、日本語でいうところの「優しさ」というだけの意味合いではないことがわかります。この詩篇の語り手「私」は、この「王」であり「花婿」である「あなた」の唇から流れ出るもの、すなわちその言葉が神の恵み・神の愛に満ちているということを、「ヘーン」𐤀𐤃𐤅を用いて表したのです。

3. 流れ出る優しさ

(1) 神の祝福

【新改訳 2017】

詩篇

45:3 勇士よ あなたの剣を腰に帯びよ。あなたの威厳とあなたの威光を。

45:4 あなたの威光は勝利のうちに進み行け。真理と柔和と義のゆえに
あなたの右の手はあなたに教えよ。恐るべきわざを。

45:5 あなたの矢は鋭い。国々の民はあなたのもとに倒れ
王の敵は気を失う。

2節で、神（父なる神）がとこしえにあなた（イエシュア）を祝福しておられるとうたわれていましたが、その祝福とは、イエシュアの唇から優しさ＝みことばが流れ出すこととされていると言えるのです。そのみことばが、「ヘレヴ」**חֶרֶב**（剣）、「ヤーラー」**יָרָה**（教える）、「ヘーツ」**יָזַן**（矢）という、神の教えの象徴としてここに記されています。

(2) ルカによる引用

【新改訳 2017】

ルカの福音書

4:21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおりに、今日、この聖書のことばが実現しました。」
人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。

イエシュアの公生涯のはじめのメッセージはイザヤ書61章のみことばでした。捕らわれ人の解放、目の見えない人が目が開かれ、虐げられている人には自由、それらの主の恵みの年（ヨベルの年）の宣言です。この「恵みのことば」こそ、「あなた」すなわちイエシュアの唇から流れ出る優しさの成就であるとルカは見ていました。まさしく、イエシュアご自身の口で語られた福音のみことばです。

おわりに

神が初めから、私たちと共に過ごして下さるために、私たちの弱さ罪深さに関わらず一方的な愛を注いでくださっていたことをあらためて思いなおした詩篇でした。あまりに深い内容で、一度では深く瞑想することが難しい預言的な一篇でしたが、原語ではどんな言葉が使われているのかを調べ、追っていくだけでも詩篇作者の喜びにふれることができます。この地道な作業を通してさらに神のみこころに思いを馳せじっくりとそのみことばを思い巡らしたいと願いつつ。

2018年1月29日 松原 小百合